

1 国語

生徒が探究的な学習過程で主体的・対話的で深い学びに迫る国語科授業の実践

—思考ツールを適切に使いながら—

井上 哲志

本論の要旨

新しい学習指導要領の実施が目前に迫り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、評価の問題をいかにするかなど、取り組むべき課題は多い。また、全国学力学習状況調査から、本校生徒には、自分の考えを持ち、それを根拠や理由を明確にしながら相手に伝える力が不足していることが明らかになってきた。また、本校において伝統的に取り組んできた総合学習「BIWAKO TIME」において、集めた資料を無批判にコピー＆ペーストするような情報の扱い方に課題を感じている。

このような課題を解決する糸口をつかむために、二つの学習単元を考案し、実施した。生徒が「書くこと」の学習活動に取り組むときに必要な知見や国語の力を「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の学習指導を通して身につけさせようとする単元である。本稿は、それらの単元の詳細を紹介し、生徒の書く力を伸ばす国語科授業の在り方について提案するものである。

キーワード 主体的・対話的で深い学び・探究的学習・「書くこと」の力を伸ばす国語科授業

1. 主題設定の理由

新しい学習指導要領の実施が目前に迫っている。国語科においては評価の観点が大きく変わる。また、全国学力学習状況調査などから我が国の中学生が根拠を明確にして自分の意見を述べることに課題があることは指摘され続けている。

自分自身の実践を振り返っても、国語科授業が「単元を貫く言語活動を通して指導事項を指導する」教科であるとされてからというもの、言語活動を中心に据えた単元において、そのゴールは作文もしくは文章による作品を仕上げるのか、もしくは話し合いや議論することに偏っている。そのために、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」そのものの指導がなおざりになっていることが課題である。

これらの問題意識から、本年度に取り組む研究では、書く力を生徒につけさせるためにはどのような授業改善をしなければならないのか、また、どのような教材で学ばせるのがよいのかを追究したいと考えた。

また、本校における今年度の研究主題は「探究的学習活動を通じた、実社会に生きてはたらく力の育成—総合学習を幹に、課題を主体的に見出す学習指導—」である。

まず、総合学習である BIWAKO TIME（以下 BT）では、生徒が課題を設定し、その解決のために資料を収集し、整理・分析するという過程で研究を進めていくのだが、その際に、集めた文献などの資料から無批判にコピー・ペーストして発表資料を作ることに課題を感じている。

同じ問題やできごと、つまり「事実」について述べていても、筆者の立場や価値観、対象との距離感などが違えば、その書き方には違いが出る。その「違い」について自覚させることは、引用の作法を教えることと同じく

らしいに大切なことであると考えた。また、書くことなどの活動を通して自分の考えを表明する際に、学習者自身がその課題に対してどれくらいの距離——日常での関わりや体験・知識・興味関心——にいるのかを自覚することは、学習主体としての自分自身を客観的に捉えるための第一歩であると考えた。

次に、本校では、探究的な学習の過程を次のように捉えている。「ある条件のもと、論理的な思考のもとで『問い』を立て、『問い』に答えるべく『情報収集』し、集めた情報を『整理・分析』し、『答え』を導き、『表現』する」ということである。

「『問い』を立て」る以降は、「書くこと」の学習過程によく似ている。学習過程を似せることで探究的な学習が成り立つとは思えないが、本年度の研究では、探究的な学習内容を追究する手立ては、指導上の工夫に求めることとし、ひとまず学習過程は探究のそれを意識しながら「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の単元を開発しようと考えた。

2. 実践事例報告(1)

(1) 単元名・言語活動例・対象・時期

「ロジカルに話そう」・紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。(A「話すこと・聞くこと」A)・中学1年生・2019年5月実施

(2) 単元設定の理由

全国学力学習状況調査からも明らかなように、本校（本県と言い換えてもよい）生徒の実態として、「根拠を明確にして自分の考えを述べる」ことに課題が見られる。とりわけ、根拠と主張とを適切に「理由付け」によってつなぐことを苦手とする生徒が多

い。

稿者は文章を論理的に書くためには、取材時の「全体を意識した上での取捨選択」と「理由付けの妥当性を議論しながら磨いていくこと」にポイントがあると考えている。

しかし、その議論をするためにはまず、理由と根拠の違いを理解している必要があり、また、理由付けと根拠の確かなつながりについて交流しながら検討するためには、それらを可視化できることが望ましい。

これらの学習活動を助けるツールが三角ロジックとロジックマップである。

中学校に入学したばかりの1年生にとっては、「書くこと」や「読むこと」の学習においてこれらのツールを使うことは難しいと考えられる。そこで、本単元では、前述の二つの思考ツールを用いながらスピーチを交流する学習を課したい。三角ロジックを用いて理由と根拠を示しながら意見を述べる方法と、ロジックマップを用いてスピーチの全体像を大まかにつかみながら話す方法とを学ばせ、「書くこと」における論理的な整合性の議論をするための基礎を作りたいからである。

(3)単元の学習目標

【知識および技能】

①原因と結果、意見と根拠など、情報と情報との関係に注意しながら話したり聞いたりすることができる。（(2)情報の扱い方に関する事項ア）

②比較や分類、関係づけなど、情報を整理しながら、話が相手に分かりやすいように工夫して話すことができる。（(2)情報の扱い方に関する事項イ）

【思考力、判断力、表現力等】

③自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。

（「A話すこと・聞くこと」イ）

【学びに向かう力、人間性等】

④目的や場面を理解し、立場や根拠の確かさに注意して話したり聞いたりしようとしている。

(4)単元の評価規準

【知識および技能】

①三角ロジックやロジックマップを用いて事例と主張を適切な理由付けで結びつけている。（ア）

②ロジックマップを用いて話の全体像を意識しながら話題を取捨選択することができる。（イ）

【思考力、判断力、表現力等】

③ロジックマップを用いて話の全体像を意識しながら

理由付けや根拠の確かさを検討し、同時に、聞き手に伝わりやすい構成や述べ方に工夫を加えることができる。

（イ）

【「学びに向かう力、人間性等」

④目的や場面を理解し、立場や根拠の確かさに注意して話したり聞いたりしようとしている。

(5)単元の学習計画

学習計画は以下の表にまとめた。

表1 単元の学習計画

	学習内容	学習のねらい・学習活動	評価する内容・方法
第1次：学習課題をつかむ。			
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して取り組む言語活動を知る。 単元のゴールを知る。 単元の流れをつかむ。 単元の学習目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って学ぶために、単元を通して取り組む言語活動について説明し、同時にゴールを示す。 ゴールを示すことで「3分間スピーチ」に取り組むことを知らせる。 自覚的に生徒が学べるように、学習目標を説明する。 	【学びに向かう力、人間性等】 ④】観察
第2次：単元の学習に取り組むための準備を整える。			
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 「理由」と「根拠」について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「三角ロジック」を示しながら、理由と根拠には違いがあることや、日本語においては理由がしばしば省略されることに気づく。 	【知識および技能】 ①】観察・ワークシート
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 論理的なつながりを図に表す方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「三角ロジック」を分解して「ロジックマップ」を作る方法を学ぶ。 	【知識および技能】 ①】観察・ワークシート
第3次：スピーチを交流する。			
第4時	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿ったスピーチの話題を決めるために考えを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った話題を選ぶためにイメージマップを用いて考えを広げる。 	【知識および技能】 ①】観察・思考

(1) 単元名・言語活動例・対象・時期

「意見文を書こう—資料の扱いに注意して—」・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動（「B 書くこと」ア）・中学校 1 年生・2019 年 7 月実施

(2) 教材

・「水田のしくみを探る」岡崎稔，（平成 24 年度版国語科教科用図書「中学生の国語 一年」，三省堂より）

・「田んぼの可能性」宇根豊，（「循環型社会と農業」，農政ジャーナリストの会編，2000 年より）

(3) 単元設定の理由

前述したように，本校生徒には，「根拠と理由を明確にして自分の考えを述べる」ことに課題が見られる。その課題に対して，これまで，理由と根拠との違いを学ばせたり，理由付けと事実とを三角ロジックを用いて可視化した上で，その確かなつながりについて交流しながら検討させたりするなどの実践を重ねてきた。

ところが，思考ツールを用いて論理的に書くことの方法を身につけても，テーマを決めたり，意見を持ったりすることに苦手意識を持つ生徒が一定数いることが分かってきた。また，意見文を書いたり，総合学習の発表原稿を書いたり，資料を収集して文章を書いたりする活動において，生徒は書物やインターネット，談話から必要な部分を取り出して用いるが，その際に目的意識や相手意識の乏しい安易なコピー＆ペーストスタイルのものが散見される。あるいは，事実や調べる対象の全体像を知るために，複数の資料を集めて読んだり，それらを比較して吟味したりするような過程を省き，効率よく文章や資料を作成しようとする傾向が見られる。

これらのことから，「ある話題について自分の考えがどのくらいの広がりを持っているのか」，また，「学級の仲間たちはどうなのか」ということを意識しながら自分の述べる意見を決定していくような学習，また，集めた情報を吟味したり，どのように文章に生かせばよいのか，考えを持たせるような学習が必要だと考えた。

そこで，本単元では，まず教材となる文章の話題である「水田」について既存の知識やイメージと，意見文を書くならどのような意見を書くことができそうかということのを可視化し，交流を通して見方や考え方を広げることから学習を始めたい。次に，書くことができそうな意見から「書こうと思う意見」を選ばせ，そのために必要な資料はどのようなものか，想像させたい。ある話題に対して意見を持つことやテーマを見いだしたりすることを学級全体で経験できるのと，自分に足りないものや事柄を補うという，学校外で説明的文章に触れる機会を想定してのことである。

また，以上のような学習に取り組ませた後で読ませる説明的文章を二種類準備した。

まず，「水田のしくみを探る」は環境学者の岡崎稔による，平成 24 年度版の国語科教科書「中学生の国語 一年」（三省堂）に掲載された文章である。文中では，水田の土壌のしくみが水の緩やかな流れを作り，それによって我々は様々な恩恵を受けているという内容が述べられており，水田の土壌のしくみや，連作障害や水害・土砂災害などが防がれるしくみを一般的事実として説明している。

次に，「田んぼの可能性」は農業技術者の宇根豊による，「循環型社会と農業」（農政ジャーナリストの会編）に掲載された文章である。文中では，水田の「多面的機能」はあくまで稲作をする上で必要な作業が結果的に生み出した機能であるが，これからの時代においては，それらの作業を，環境技術として確立する道を探るべきであるという提言である。文中では，筆者の農業技術指導員や農家としての経験をふまえた個別の事例が示されている。

このように，話題や事例に共通する部分も多い二つの説明的文章を読み比べ，取り上げられた事例の書き方の違いに注目して筆者の立場や相手意識を読み取るという単元に取り組ませたい。説明的文章の目的は知識を授けることから，読者の考えや行動様式に影響を及ぼすことを志向するものまで様々にあると考えられるが，中心となる話題に対する筆者の立場や関わり方と事例の示し方を関連付けて読み取ることで，自分の収集すべき情報やその取り出し方について考えを持つことができる考えたからである。

(4) 単元の学習目標

【知識及び技能】

①原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。（(2)情報の扱い方に関する事項ア）

②比較や分類，関係付けなどの情報の整理の仕方，引用の仕方や出典の示し方について理解を深め，それらを使うこと。（(2)情報の扱い方に関する事項イ）

【思考力，判断力，表現力等】

③文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握すること。（C読むことア）

【思考力，判断力，表現力等】

④目的に応じて必要な情報に着目して要約しながら，内容を解釈すること。（C読むことウ）

【学びに向かう力，人間性等】

⑤意見文を書く目的で説明文を比較して読んだり，集めた資料を生かそうとしている。

(5) 単元の評価規準

【知識および技能】

①筆者の意見とそれを支える事例とを関連づけて読むことができる。

②複数の文章を比較し、共通点や相違点を整理することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

③意見文を書く際に、事実と意見の関係に注意しながら、収集した情報を編集することができる。

【「学びに向かう力、人間性等」】

④意見文を書く目的で説明文を比較して読んだり、集めた資料を読んで適切に引用する方法を学ぼうとしている。

(6)単元の学習計画（全7時間）

表2 単元の学習計画

	学習内容	学習のねらい・学習活動	評価する内容・方法
第1次：学習課題をつかむ			
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して取り組む言語活動を知る。 単元のゴールを知る。 単元の学習目標を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って学ぶために、単元を通して取り組む言語活動について説明し、同時にゴールを示す。 ゴールを示すことで意見文を書く活動に取り組むことを知らせる。 自覚的に生徒が学べるように、学習目標を説明する。 	【主体的に学習に向かう態度④】観察
第2次：意見文を書くために自分の考えを持つ			
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 水田についての知識や考えを自覚する。 水田を話題にした二つの説明的文章を読み比べ、事例の示し方の違いをとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文を書くために、水田について知っていることを自覚させる。同時に、述べたい意見を学級で交流し、考えを広げると同時に自分の立場を意識させる。 二つの説明文を読み比べ、共通点と相違点を見つけさせる。 相違点に注目し、どうしてそのような差異が生まれるのか、考えを持たせる。 	【主体的に学習に向かう態度④】ワークシート（同心円マップ） 【知識および技能①・②】観察・ワークシート（ベン図）

第3～4時		<ul style="list-style-type: none"> 意見文を書くために自分が集めた資料のどの部分を引用するか、考えを持たせる。 	
第5時	<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料について考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって必要な資料はどのようなもので、どのような性質のものなのか、考えを持たせる。 	【主体的に学習に向かう態度④】観察
第3次：意見文を執筆し、交流する			
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ロジックマップを用いて考えの全体像をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 主張・理由・事例をロジックマップで可視化し、意見文の論理構造を把握させる。 	【思考力、判断力、表現力等③】ワークシート（ロジックマップ）
第7～8時	<ul style="list-style-type: none"> 執筆 交流 	<ul style="list-style-type: none"> 意見文を執筆し、交流させる。 事例の示し方を相互評価させる。 	【思考力、判断力、表現力等③】作品

(7)本時（令和元年度研究協議会）の指導案

表3 学習指導案

	学習内容・活動	○指導 ◆評価 ★課題を主体的に見い出す方策
導入	1. 隣り合わせのペア同士で前時の学習活動・学習内容・身に付いたり発揮した国語の力を交流し、振り返る。	○振り返りシートに沿って交流させる。 ◆学習活動・学習内容・身に付いたり発揮したりした国語の力を振り返ることができる。（観察・ワークシート）
<div>学習課題 違いに注目して事例の示し方について考えを持つ</div>		
展開	2. 本時の学習課題と学習活動をつかむ。 3. 引用のルールを学ぶ。 4. 学んだことを作文に生かす。	○振り返りをもとに、本時の学習課題と学習活動を示す。 ◆積極的に交流し、意見交換している。（観察） ○スライド・ワークシートを元に、「引用」の定義や、引用箇所および出典を明記することの目的、そのルールについて説明する。また、練習問題に取り組みせて知識の定着を図る。 ○引用のルールを学んだことを生かしながら作文に取り組みさせる。

	学習内容・活動	○指導 ◆評価 ★論理的・創造的な思考・判断・表現を促す方策
展開		○引用のルールを学んだことを生かしながら作文に取り組ませる。 ◆資料から情報を適切に引用することができる。(観察)
まとめ	10. 本時の学習を振り返る。	○本時の学習を振り返り、ワークシートに記入するよう指導する。

(8) 指導上の工夫

①我々大人が説明的文章を読むときというのは、何かを調べるときや、自分にない考えを新たに取り入れるときがほとんどである。つまり、ある目的をもって読むのであって、中学生が教材として読むこととは隔たりがある。

そこで、本単元では、「水田」を話題に意見文を書くという設定で、資料として説明的文章を読むという学習の場を設定した。このことによって、生徒は自分が意見文を書くならどちらの資料が適しているか、そして、書きぶりはどちらを参考に書けばよいのかという、二つの視点で文書を読むことが可能になった。

教材とする文章を生徒が主体的に学習材料として捉えるためには、このような出会わせ方の工夫が必要であると考えます。

②探究的な学びについて

本単元において、生徒に取り組ませた主な「問い」は以下の二つである。

- ・水田について意見を述べるとすれば、自分は何を述べる事が可能か。
- ・テーマや話題が決まっているとき、引用したり参考にしたりに適した資料はどのように判断すべきか。

いずれも、理由や原因を問うものではなく、仲間の意見と自分の意見とを比べながら考えを持ったり、授業の中で文章を読みながら考えを整理し、その上で仮説を交流したりする中で見えてくる課題である。

文章を書くということは、様々な国語の力を、さまざまな意識のもと統合して取り組まなければならない総合的な学習活動である。本単元では、「何を書くか」ということを決める際に役立つ、見方・考え方を探究させる意図で取り組ませた。

③思考ツールについて

・ベンリックス

二つの文章を読み比べるのに、ベン図とマトリクスをミックスした「ベンリックス」を用いた。「話題」・「筆者の問題意識」・「主張」・「想定している相手」・「事例」・「表現の仕方」・「目的意識」という七つの視点で二つの文章を読み比べるために用いた。視点が多

くて、生徒は読み比べるのに長い時間を要してしまったが、視点を定めることで交流がしやすくなったのと、より深く読み取ることができたのは収穫であった。

・同心円マップ

本単元ではイメージマップとして考えを広げるために用いた。同心円にしたの

は、「思いつき」から考えを深めて、「書く必然性」を意識させるためである。また、交流を通して、仲間の問題意識を見ながら、自分が書くべき課題を取捨選択することにつなげた。意見文を書くには、自分が「書ける」・「書きたい」ことは何かということから、「書く値打ちのある」ものを書くという意識も必要になる。教室内で

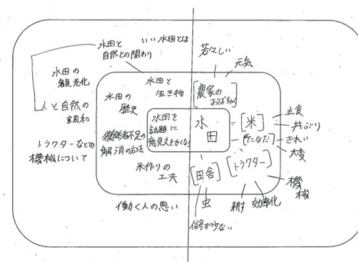


図4 同心円マップ

4. 成果と課題

二つの単元を通して、生徒が考えを広げる方法を、思考ツールの使い方を指導する中で身につけさせることができた。また、情報の整理をするときの視点や基準について、考えを持たせることができた。加えて、それぞれの単元の中で、生徒に「問い」を立てさせることはできなかったが、授業を展開する中で、言葉による見方・考え方を働かせながら生徒が考えを探究する「問い」を提示することはできたと考えている。

ただ、「話すこと・聞くこと」や、「読むこと」を指導する単元の中で身につけたことを生徒が適宜振り返りながら「書く」学習活動に取り組むことで、真に書く力が伸びるものなのか、検証が不十分であったと感じている。今後の課題としたい。

事例の示し方や述べ方と同時に生徒が国語の見方・考え方を働かせて探究的に取り組む「問い」を示すことができた意見文を書くために二つの説明的文章を事例の扱いに注目して読むという、目的と視点を定めて学習に取り組ませることで、身につけるべき国語の力は明確になった。

図3 ベンリックス